



## 神様は軽トラに乗り秋祭

長井多可志

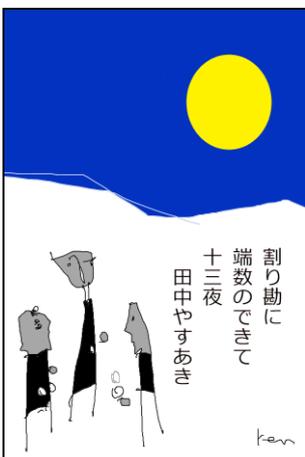
宮出しをされたご神体は、朝方、神輿に載せて担がれて、夕方には宮入となる。神輿の担ぎ手がなくなって軽トラになった現代の滑稽が描かれた。



## 天の川死は平等に訪れる

田中 勇

天の川を見て宇宙の広がりと時の悠久を思う時、万物の無常を感じる。人生は人それぞれだが、もれなく訪れる死の平等を実感するのだ。



## 割り勘に端数のできて十三夜

田中やすあき

さて、店を出ようと幹事さんが会計を計算すると端数が出た。よし、もう一軒行って、そこで割り切ろう。それでもだめならもう一軒行くさ。



## まるごとの栗が嬉しい栗ご飯

岡田廣江

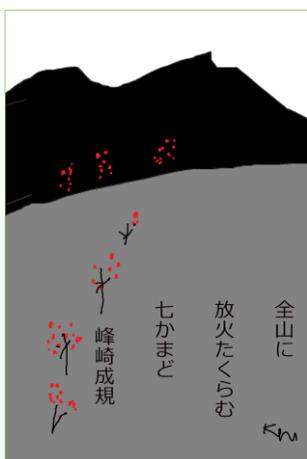
嬉しさを素直に描いたのがよろしい。家庭によって、丸ごとなのか小さく切るのか作り方もいろいろだが、栗の大きさや秋の豊かさが表現された。



## 秋の浜誰にも見せぬ膝小僧

谷本 宴

夏の水着では隠しようもないが、秋の浜辺ではスカートの裾を少し持ち上げて歩いてみた。誰に見せることも見られることもない秋の海である。



## 全山に放火たくらむ七かまど

峰崎成規

ナナカマドの赤が飛び火すれば大変なことになる。それほどに実の赤色は火力が強い。あの色は全山に放火を企んでいるとみて間違いないだろう。